

# 薬 剤 科

中多 泉

大阪医療センターの運営方針に基づき、薬剤科は正確な調剤、良質な医薬品供給、医薬品の適正使用の推進、医薬品の安全管理、病棟における薬物療法の有効性・安全性の向上に資する業務、薬剤管理指導業務、チーム医療への主体的関与（HIV 感染症患者への服薬支援、がんサポートチーム、NST、ICT、外来化学療法室でのがん薬物療法支援など）を実践することで、良質かつ適正な医療の提供に貢献することを基本方針としている。また、各種専門薬剤師の養成のもと専門認定施設（がん、HIV、NST）としての研修受け入れ体制を確立している。

## 1. 病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務

病棟担当薬剤師を専任化し、病棟薬剤業務実施加算の要件である病棟での必須業務時間（20 時間/週）を確保しつつ、薬物療法の質の向上と医療安全の確保を主な目的として、次の業務を行っている。

### 1) 無菌調製業務

注射処方 of 投与量、投与速度、配合変化などの確認を行うとともに、病棟に設置したクリーンベンチ内で注射薬を無菌調製している。（4400 件/月）

### 2) 入院時の持参薬確認

入院時の持参薬について、複数薬剤師による二重の確認と正確な報告、服用状況の確認を行うことにより、医療安全の向上と持参薬服用の適正化に取り組んでいる。

### 3) 処方提案・支援

主治医に対して行っている主な提案・支援は、持参薬の代替薬を提案、処方設計支援、支持療法薬の提案、薬物血中濃度に基づいた処方設計である。

### 4) 医薬品情報の提供・相談応需

各カンファレンスで採用医薬品情報の提供や医薬品に係る医療スタッフからの照会や相談に対して情報提供に努めている。

### 5) 薬剤管理指導業務

医薬品薬物療法に係る様々な情報を収集・分析し、その内容から効果の評価、副作用のモニタリングを実施する事により、適正使用と副作用の発現防止が主な業務である。また、緩和ケアチーム、ICT、NST などのチームと連携して、薬学的アプローチを積極的に実施している。

## 2. 外来服薬支援指導

抗 HIV 薬の服薬には職種間の連携、HIV 感染症の専門的知識が必須であることから、HIV 感染症専門薬剤師 2 名（専従）を配置し、感染症科外来に隣接した「お薬の相談室」に薬剤師が常駐することで患者サービスの向上や医療スタッフ間の連携強化を図るとともに HIV 感染症患者対象の緩和ケアチーム（PWA: (people with AIDS) サ

ポートチーム)にも参画する事により、長期的な支援体制を構築している。外来における年間指導件数は 3445 件であった。また、外来化学療法室では、治療計画、副作用などについて指導を実施し、がん薬物療法の安全と質の向上に努めている。薬剤師による外来がん薬物療法患者への指導件数は 1067 件であった。主治医からの依頼によるがん患者指導管理料請求件数は 29 件であった。

### 3. 医薬品情報管理 (収集・整理・評価・提供)

医薬品情報の適正な管理と供給を行うために専任スタッフを配置し、医療スタッフからの相談応需や医薬品情報の発信を行っている。また、薬事委員会決定事項、厚生労働省医薬品・医療機器安全性情報、院内 Q&A、トピックスなどを掲載した院内医薬品情報誌「Drug Information Service (DIS)」を 2 ヶ月毎に発行している。院内における医薬品に係わる情報を集積し、医療安全推進室や関係委員会と連携して院内への周知を図るとともに厚生労働省への医薬品・医療機器副作用報告も積極的に行っている。(13 件/年)

### 4. 治験薬管理業務

治験薬管理者(薬剤科長)の管理責任の下、GCP を遵守した治験薬の適切な保管、管理、調剤を行うと共に、抗がん剤や注射薬の無菌調製などを行い、被験者への治験薬投与が円滑かつ安全に行われるよう努めている。更には、受託研究審査委員会委員として院内における治験・臨床研究の適切な実施の推進に協力している。

### 5. 専門薬剤師の育成・研修受入体制の推進

日本病院薬剤会 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設、日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設、日本病院薬剤師会小児薬物療法認定薬剤師研修施設の認定を受けている。また、科員や院内職員を対象とした院内研修会の参画に積極的に取り組んでいる。

今年度の薬学生長期実務実習生は 32 名を受け入れ薬学教育にも寄与している。

### 6. 臨床研究業績

論文投稿、学会発表等は以下の通りである。

今年度は、国内外学会誌に論文、国際学会に演題を報告した。

【2014 年度研究発表業績】

A-0

Yagura H, Shibata M, Kushida H, Yoshino M, Nakata I, Uehira T, Morita S, Shirasaka T, Teraoka R, Kuwahara T, Kitagawa S, Thermal Stability of Tenofovir Disoproxil Fumarate in Suspension, Jpn. J. Pharm. Health Care Sci., 40 (4) : 230-236 (2014 年 4 月)

Makihara K, Azuma S, Kawato N, Ueno H, Nakata I: Pre-treatment serum total bilirubin level as an indicator of optimal CPT-11 dosage: Cancer Chemotherapy and Pharmacology, 75: 273-279, February 2015. doi: 10.1007/s00280-014-2633-3. Epub November 2014.

A-3

関本裕美、河合実、中蔵伊知郎、服部雄司、本田芳久、定光大海：腎機能別遺伝子組換えトロンボモデュリン $\alpha$ の用量について「日本臨床救急医学会雑誌」(17)：P.440-444、2014 年 6 月

堀部明美、松山賢治、松野純男、富山直樹、池田麗、山下大輔、中蔵伊知郎、朝倉正紀、鎌倉史郎、黒沢菜穂子：アミオダロンおよびデスエチルアミオダロン血中濃度に及ぼす肥満、服用期間の影響「薬局薬学」(6)：P.37-42、2014 年 6 月

江並亜希子、増田慎三、山村順、水谷麻紀子、八十島宏行、四方文子、正岡美幸、高田聖子、馬場奈央、山本美恵、阿部恵、槇原克也：乳癌患者における FEC 療法中の口腔粘膜炎の発症と Rebamipide 製剤の治療効果に関する検討「癌と化学療法」41 (11)：P.1407-1412、2014 年 11 月

中蔵伊知郎、坂倉広大、上野裕之、中多泉：ポリコナゾール中止 24 時間後からミダゾラムの維持投与量の増量が必要であった 1 症例「医療薬学」(41)：P.108-112、2015 年 2 月

吉村友里、中尾元紀、上野裕之、玉田太志、赤尾昌治、辻琢己、河野武幸、北村良雄：院内ガイドライン作成による周術期の抗血栓薬の取扱いの標準化「日本病院薬剤師会雑誌」第 51 巻 3 号：P.305-309、2015 年 3 月

B-3

矢倉裕輝：「あの人最近来ていないね」そんな時どうする？ ～チームで支える受診継続～、第 28 回日本エイズ学会学術集会、総会ランチョンセミナー、2014 年 12 月

矢倉裕輝：こんな時どうしたらよいの？～抗 HIV 薬の相互作用を中心に～、第 28 回日

本エイズ学会学術集会、総会ランチョンセミナー、2014年12月

山西香織：ワーファリン治療における薬剤師の役割、第68回国立病院総合医学会、ランチョンセミナー、2014年11月

東さやか：消化器癌治療と腎機能～胃癌治療を中心に～。日本臨床腫瘍薬学会2014シンポジウム、2015年3月

#### B-4

阿部正樹、中蔵伊知郎、服部雄司、若井聡智、上尾光弘、定光大海：3次救急外来にて薬剤師が治療に参画した2症例。第17回日本臨床救急医学会総会・学術集会、2014年5月

中蔵伊知郎、藤尾弥希、阿部正樹：meropenem、doripenem 3g/日投与時の安全性に関する後方視的調査。第88回日本感染症学会学術講演会第62回日本化学療法学会総会合同学会、2014年6月

藤尾弥希、中蔵伊知郎、阿部正樹：Daptomycin投与4日目にcreatin phosphokinaseの急上昇を認めた2症例。第88回日本感染症学会学術講演会第62回日本化学療法学会総会合同学会、2014年6月

矢倉裕輝、吉野宗宏、廣田和之、伊熊素子、小川吉彦、矢嶋敬史郎、笠井大介、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、Raltegravir および Etravirine を粉碎法および簡易懸濁法を用いて経管投与した症例の薬物動態に関する検討、第88回日本感染症学会学術講演会、2014年6月（福岡）

Makihara K、Azuma S、Yamada T、Hirohara K、Nakata I: Predicting febrile neutropenia from docetaxel-based therapy in a population-based analysis of solid tumor patients. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会、2014年7月

庄野裕志、榎原克也、垣内万依、海家亜希子、田中希世、田口裕紀子、八十島宏行、水谷麻紀子、増田紘子、増田慎三：カルボプラチン投与量設定における血清クレアチニン値補正の検討。第22回日本乳癌学会学術総会、2014年7月

垣内麻衣、海家亜希子、榎原克也、田中希世、田口裕紀子、八十島宏行、水谷麻紀子、増田紘子、増田慎三：進行・再発乳がんにおけるペルツズマブの使用経験～安全性の観点から～ 第22回日本乳癌学会学術総会、2014年7月

Makihara K, Azuma S, Yamada T, Hirohara K, Nakata I: Impact of drug interaction between irinotecan (CPT-11) and clarithromycin in colorectal cancer patients. 第 52 回日本癌治療学会学術集会、2014 年 8 月

東さやか、榎原克也、川戸順之、上野裕之、中多泉：消化器癌患者におけるイリノテカンの用量設定基準となりうる総ビリルビン値の検討、第24回日本医療薬学会年会、2014年9月

中蔵伊知郎、藤尾弥希、川戸順之、上野裕之、中多泉：voriconazole の中止により midazolam の増量が必要になった 1 症例。第 24 回日本医療薬学会年会、2014 年 9 月

Makihara K, Azuma S, Ueno H, Nakata I, Yamamoto K, Nishikawa K, Hirao M, Fujitani K, Tsujinaka T: Effect of renal function on continuation of S-1 adjuvant chemotherapy in gastric cancer patients. ASCO2015 Gastrointestinal Cancer Symposium, San Francisco, USA, 2015 年1月

矢倉裕輝、櫛田宏幸、冨島公介、西本亜矢、廣田和之、伊熊素子、小川吉彦、矢嶋敬史郎、笠井大介、渡邊大、西田恭治、吉野宗宏、上平朝子、白阪琢磨、当院におけるリルピピリン塩酸塩の使用成績 第 2 報、第 28 回日本エイズ学会学術集会、2014 年 12 月（大阪）

冨島公介、櫛田宏幸、矢倉裕輝、廣田和之、伊熊素子、小川吉彦、矢嶋敬史郎、笠井大介、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、ST 合剤の脱感作療法中に発現する過敏症の発現時期と投与法に関する検討。第 28 回日本エイズ学会学術集会、2014 年 12 月（大阪）

櫛田宏幸、冨島公介、矢倉裕輝、吉野宗宏、廣田和之、伊熊素子、小川吉彦、矢嶋敬史郎、笠井大介、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：Darunavir を含む治療時に持続する低レベルの血中 HIV-RNA を検出する症例に関する影響因子の探索。第 28 回日本エイズ学会学術集会、2014 年 12 月（大阪）

榎原克也、上野裕之、中多泉：オキサリプラチンの個体間変動要因に基づく治療戦略への検討、日本臨床腫瘍薬学会学術集会 2015、2015 年 3 月

梅原玲緒奈、榎原克也、上野裕之、中多泉、角永茂樹、久田原郁夫、上田孝文：骨肉腫に対する Pre-hydration 省略による HD-MTX 療法の安全性の検討、日本臨床腫瘍薬学会

学術集会 2015、2015 年 3 月

垣内万衣、槇原克也、上野裕之、中多泉：エリブリンメシル酸塩の治療継続に及ぼす腎機能の影響、日本臨床腫瘍薬学会学術集会 2015、2015 年 3 月

小野朝香、梅原玲緒奈、槇原克也、上野裕之、中多泉：骨・軟部肉腫に対するイホスファミド大量療法における制吐剤の使用状況と課題、日本臨床腫瘍薬学会学術集会 2015、2015 年 3 月

矢倉裕輝、HIV 感染症治療の現状と当院における薬剤師の関わり、静岡県病院薬剤師会・平成 26 年度 HIV 感染症薬物療法研修会、2014 年 10 月（静岡）

森田知子、松尾友香、川端一功、川戸順之、上野裕之、中多泉：薬剤科と臨床研究推進室の協同による治験薬管理体制の改善に向けた取り組み-薬剤科からの報告-。第 68 回国立病院総合医学会、2014 年 11 月

矢倉裕輝、HIV 診療への薬剤師介入が患者へもたらす効果、第 25 回日本エイズ学会学術集会、総会、HIV 感染症薬物療法認定・専門薬剤師講習会、2014 年 12 月

#### B-5

矢倉裕輝、当院における抗 HIV 薬および関連薬剤に関する最近の話題～日和見感染症、新薬からサプリメントまで～、第 3 回沖縄抗 HIV 薬勉強会、2014 年 5 月（沖縄）

富島公介、症例検討 「抗 HIV 療法～基礎編～」～併用薬を選択する際の留意点について～。平成 26 年度東北 AIDS/HIV 薬剤師連絡会議 2014.10.25（仙台）

富島公介、「当院における服薬相談の実際と院外薬局薬剤師への期待」、保険薬局薬剤師向け研修会「第 7 回保険薬局 HIV ミーティング」【大阪エイズウィーク 2014 期間外イベント】 2014.12.13（大阪）

#### B-6

垣内麻衣、海家亜希子、槇原克也、田中希世、田口裕紀子、八十島宏行、水谷麻紀子、増田紘子、増田慎三：進行・再発乳がんにおけるペルツズマブの使用経験～安全性の観点から～第 2 報～。第 15 回関西がんとチーム医療研究会、2014 年 9 月

槇原克也、東さやか、上野裕之、中多泉：結腸・直腸癌のイリノテカンと抗 EGFR 薬併用レジメンにおけるクラリスロマイシン併用の影響。第 16 回関西がんとチーム医療研究

会、2014年9月

藤田晃介、中筋早織、富島公介、櫛田宏幸、矢倉裕輝、上野裕之、中多泉：薬学実習生を対象とした抗 HIV 薬の模擬服薬体験の実施と服薬指導に対する意識の変化。第 36 回日本病院薬剤師会近畿学術大会、2015 年 1 月

